精神保健福祉相談援助の基盤

問題 21 精神科ソーシャルワーカーの歴史に関する次の記述のうち，**正しいもの**を2つ選びなさい。

1 1948年(昭和23年)に，精神科ソーシャルワーカーは精神衛生相談員という名称で初めて精神病院に配置された。

2 1964年(昭和39年)に，保健所の精神衛生相談員を主たる構成員とする日本精神医学ソーシャル・ワーカー協会が設立された。

3 1987年(昭和62年)の精神衛生法改正時の附帯決議では，精神科ソーシャルワーカー等のマンパワーの充実を図ることとされた。

4 1993年(平成5年)の障害者基本法では，精神科ソーシャルワーカーの具体的な業務が規定された。

5 2010年(平成22年)の精神保健福祉士法の改正では，精神障害者への地域相談支援の利用に関する相談が精神保健福祉士の役割として明確に位置づけられた。

問題　22　25年のキャリアを持つA精神保健福祉士は，クライエントの照会を通じて知り合った経験3年目の精神保健福祉士から，「3年目になったが，まだ適切な支援ができない」と相談を受けた。A精神保健福祉士は，以前にも他の中堅の精神保健福祉士から，「経験は増えたが，仕事の達成感を得にくい」と相談を受けていた。そこで，キャリアに応じた仕事の仕方や目標を整理するためのグループ形式の研修会を開催した。参加者からは，「経験年数に合わせた支援方法や目標が具体的となった」，「モチベーションが上がった」といった好評が得られた。

A精神保健福祉士が開催した研修会のねらいとして**適切なもの**を，次の国際ソーシャルワーカー連盟（ＩＦＳＷ）の倫理綱領に規定されている倫理基準から**2つ**選びなさい。

1　業務改善の推進
2　情報の共有
3　専門性の向上
4　専門職の擁護
5　専門職の啓発

問題　23　次の記述のうち，ヴォルフェンスベルガー（Wolfensberger，W.）が新たに提唱したノーマライゼーションの理念として，**適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1　障害がある人たちに，障害のない人々と同じ生活条件をつくり出す。
2　社会で主流となっている，毎日の生活条件に近い環境での暮らしを目指す。
3　自己決定と選択権が最大限尊重されている限り，人格的には自立しているとみなす。
4　社会に完全かつ効果的に参加し，社会に受け入れられるようにする。
5　社会的に価値を低められている人々に，社会的役割をつくり出す。

問題　24　次の記述のうち，ソーシャルワークにおける生活モデルの説明として，**最も適切なものを１つ**選びなさい。

1　クライエントが持つ才能，資源，要求や向上心を十分に認識し尊重する。

2　クライエントの抱える問題や課題を社会診断により探る。

3　包括的な視点からクライエントと環境の交互作用の接点に介入する。

4　クライエントの中にある原因と結果の直接的な連鎖に着目する。

5　インテークから処遇に至る一連の過程をソーシャルワークと捉える。

問題　25　次のうち，精神保健福祉士が関係者や社会に対して実施する，実践やその結果に関する情報開示や説明の根拠となる考えを示すものとして，**適切なものを１つ**選びなさい。

1　アカウンタビリティ

2　インフォームドコンセント

3　アドヒアランス

4　セカンドオピニオン

5　リスクマネジメント

問題　26　医療機関に勤務する専門職に関する次の記述のうち，**正しいものを２つ**選びなさい。

1　薬剤師は，医師等の処方箋に対して疑わしい点がある場合には，他の薬剤師と相談して処方を変更し，調剤を行う。

2　看護師は，医師の指示なく自身の判断で入院中の患者の薬剤の投与や採血，創部の処置を行う。

3　作業療法士は，患者の状態像をアセスメントし，医師の指示の下に，社会的適応能力等の回復を図るため，工作等の作業指導を行う。

4　公認心理師は，業務独占で心理面接や心理検査を行う。

5　管理栄養士は，傷病者に対する栄養指導並びに施設での給食管理及び栄養改善上の必要な指導等を行う。

問題　27　次のうち，「障害者総合支援法」における個別支援計画を作成する者として，**正しいもの**を**1つ**選びなさい。

1　相談支援専門員

2　サービス管理責任者

3　生活支援員

4　就労支援員

5　サービス提供責任者

（注）「障害者総合支援法」とは，「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題　28　次の記述のうち，精神保健福祉士が行うアドボカシーにおける介入機能の説明として，**適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1　ソーシャルワーカーの理念と組織・制度の問題を結び付けるために，クライエント集団と地域福祉政策とを結び付ける。

2　日常的なジレンマを抱えながらも，弁護や変革を主体的に推進する。

3　クライエントの置かれている環境や状況に対して，問題を見付け出し提起する。

4　制度や組織との仲介者・媒介者として，個別の問題を扱う。

5　制度や組織の壁に対して，専門職としては中立を保ちながらも，クライエントの利益のために代弁する。

問題　29　次の記述のうち，トランスディシプリナリ・モデルによる多職種チームに関する特徴として，**適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1　チームリーダーである医師の指示により，各専門分野の役割を実行する。

2　各職種の専門性をいかし，チームの意思決定に主体的に関与する。

3　専門分野別に目標を設定し，支援する。

4　共通の達成課題を掲げ，各専門職の役割代替が認められる。

5　緊密な相互連携を形成し，多分野からのサービス提供を行う。

（精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題１）

次の事例を読んで，**問題30から問題32まで**について答えなさい。

〔事　例〕

来日した留学生Bさん(24歳，男性)は，日本語学校に入学し，生活習慣の違いに不安を抱えながらも新生活を始めた。居住している留学生会館があるN地区は，外国籍の労働者や留学生が多く，国際結婚をした家族も多数居住している。Bさんは，同じ日本語学校の留学生Cさんたちともすぐに仲良くなり，当初あった不安も減り孤独を感じることなく，慌ただしいながらも暮らしに馴染(なじ)んでいった。**(問題30)**

来日して3か月が過ぎた頃から，Bさんは気分が落ち込み，仲間たちとも次第に距離をとるようになっていった。その様子を心配したCさんが，Bさんに付き添い日本語学校の保健室を訪れると，留学生支援で実績があるN地区のUクリニックを紹介された。

Uクリニックの医師は，Bさんに薬物療法の必要性を伝え，定期的な通院を勧めた。インテークを担当したD精神保健福祉士は，言語や生活習慣の違いを特に注意しながら，Bさんと面接を行った。**(問題31)**

Bさんは，D精神保健福祉士との面接を通じて，二人にサッカーという共通の趣味があることも分かり，徐々に打ち解けていった。その後，Bさんは，自分の不調をうまく言葉に表すことができず苦しかったことや，日本での手続が複雑で困ったこと，日常生活で困惑したことなどを話すようになり，元気を取り戻していった。

ところがある日，BさんはD精神保健福祉士に，「留学生同士でも違う」，「みんな一緒にするな」と語気を荒げた。そして，普段はあまり使わない母国語も交え，「この地区では同じ国の出身者と集まることが多い」，「留学生同士でも仲間に入れない人や，孤立している人がいる」と続け，これまで感じていた違和感や疎外感について訴え，肩を落とし，やがて沈黙し涙を浮かべた。**(問題32)**

Bさんは通院を継続し，半年後には落ち着いて仲間たちとも付き合えるようになった。最近の面接では，「趣味のサッカーをいかし，地域で交流を深められないか」と前向きな発言が聞けるようになってきている。

問題　30　次のうち，このときBさんがCさんたちから受けていたソーシャルサポートとして，**最も適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1　所属的サポート

2　情緒的サポート

3　情報的サポート

4　道具的サポート

5　評価的サポート

問題　31　次のうち，D精神保健福祉士がBさんとの面接に当たり，念頭に置く内容として，**最も適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1　コミュニティオーガニゼーション

2　エビデンス・ベースド・プラクティス

3　ソーシャルアクション

4　ソーシャルエクスクルージョン

5　カルチュラル・コンピテンス

問題　32　次の記述のうち，この場面におけるD精神保健福祉士の発言として，**最も適切なもの**を**1つ**選びなさい。

1「留学生同士のまとまりをより深めてみましょう」

2「他地域の様子を参考にしてみてはどうでしょう」

3「私も疎外感を覚えたときがありましたよ」

4「地域の人々と交流したいのですね」

5「今，孤独を感じているのですね」

（精神保健福祉相談援助の基盤・事例問題２）

次の事例を読んで，**問題33から問題35まで**について答えなさい。

〔事　例〕

Ｅさん(27歳，男性)は菓子職人として働いていたが，度重なる残業がストレスとなり，23歳の時に不眠が生じ，また幻聴も始まったため精神科病院を受診した。統合失調症と診断され３か月の入院の後，精神科デイケアに通院して４年が経過している。

ある日，Ｅさんは，デイケアの仲間が働き始めたことに刺激を受け，「自分もどうしても働きたい」と担当の精神保健福祉士に相談した。そこで，公共職業安定所(ハローワーク)の精神障害者雇用トータルサポーターであるＦ精神保健福祉士を紹介され，面談することとなった。

「調子がいい時と悪い時がある。病気のことは内緒にして働いたこともあったが，うまくいかなかった」と話したＥさんは，Ｆ精神保健福祉士から将来について聞かれ，「子どもの頃から物作りが好きだった。菓子職人になったけど，思うとおりにはならなかった。今はデザインの仕事をして人を幸せにしたい」と語った。Ｆ精神保健福祉士は，就職への強い希望と意欲がＥさんの強みだと感じた。**(問題33)**

Ｆ精神保健福祉士は，Ｅさんの症状は安定していないが，多職種で協力し一般就労に結び付けたいと考えた。そこでＥさんの了承の下，主治医，担当の精神保健福祉士，Ｅさんが最近利用するようになった地域活動支援センターの職員と連絡を取り，１週間後に本人同席の上で今後の就労支援の方向性を話し合うための会議を開催した。**(問題34)**

話合いでは，デザイン関連につながる仕事を探すこと，障害年金の受給と合わせることで短時間労働でも経済的な自立を目指せることなどが確認された。

Ｆ精神保健福祉士はこれらの条件に合う企業をいくつか訪問し，Ｅさんのことを紹介した。すると，就職後もＦ精神保健福祉士を中心としたチームが職場訪問すること，困り事などの相談や調整を継続することを条件に受入れを承諾してくれる企業を見付けることができた。働き方についてもＥさんと会社，さらにＦ精神保健福祉士が話し合い，週３日，１日４時間から働くことになった。Ｅさんは職場の理解の下，継続して半年間働いている。今では週４日に日数を増やすことも考えている。**(問題35)**

問題　33　次のうち，F精神保健福祉士がとったアプローチとして，**適切なもの**を1つ選びなさい。

1　フェミニストアプローチ

2　ジェネラリストアプローチ

3　エンパワメントアプローチ

4　ナラティブアプローチ

5　クライシスアプローチ

問題　34　次の記述のうち，この会議におけるF精神保健福祉士の最初の提案として，**適切なもの**を1つ選びなさい。

1「支援の方向性を決めましょう」

2「Eさんの症状を教えてください」

3「福祉的就労から段階的に就労してみましょう」

4「Eさんの思いを話してください」

5「Eさんの課題をそれぞれ話してください」

問題　35　次のうち，F精神保健福祉士が行った支援として，**正しいもの**を1つ選びなさい。

1　職場適応援助者(ジョブコーチ)支援

2　ＩＰＳ

3　職業準備支援

4　職場適応訓練

5　従業員支援プログラム(ＥＡＰ)